今後の計画についての議論のまとめ

全資料目録の完成予定

現在（2014 年 7 月末）の段階で第三研究室の資料まで目録化がすすんでいる。あと第四研究室、第一観測室（１階)、第二観測室（1 階、2 階、３階）分が残されており、全体のおよそ三分の一の分量と見積もれるので、この調子ですすむと来年の３月くらいには全資料目録ができあがる予定である。目録は適当な部数を印刷し、必要とする機関に配布する。しかしこうした目録の大事なことはオンライン検索が容易にできることにあり、そのために適当なサイトで公開することを考えている。

また完成した時点で山本章氏と花山天文台長の間で目録の贈呈式を行い、山本天文台資料の京大への寄贈についての正式契約をとりかわすつもりである。2011 年の時点では、寄贈品の目録がなく口約束での契約であった。名目上は花山天文台に寄贈され、理学研究科中央図書室の管理のもとにあることになっている。なお古星図 3 点（『天文図』、『天文成象分野之図』、『天文成象』）については、その修復を近い将来大学の予算で行うための申請に必要なことから、別箇にリストをつくり正式の寄贈契約書がすでに交わされている。この三資料については附属図書館の機関誌『静脩』（2014 年 10 月号）に紹介記事を書いた。

国立科学博物館、天体望遠鏡博物館等との連携

明月記展との連携については資料の開陳に全面的に協力することでのぞむことになった。先に長野県の坂井義人氏から花山天文台に寄贈されたカルバー46cm 反射赤道儀も同展に展示することになり、その組立・会場搬入について西村製作所および天体望遠鏡博物館の村山昇作氏にご協力をいただくことになった。実際、7 月 27 日に行われた足場の悪い花山天文台太陽館倉庫からの搬出と西村製作所への搬入においては、村山氏の声かけで日本サルベージの社員の方々がボランティアで作業にあたってくださった。その後、西村製作所工場での組み立てには同社の社員の方々の創意により、1927 年に花山天文台に設置された当時のすがたで復元がなされた。さらに特別展オープン直前の 8 月 30 日には西村製作所と日本サルベージの方々のご協力により、2 階の展示場に搬入し、やぐらを組んでの組み立て作業により、すばらしい展示が完成したのであった。

歴史的な望遠鏡についてそれらを所蔵する関係機関がたがいに協力しあって保存・公開を進めてゆく方向性については前年度から国立科学博物館とも話しあってきたが、今回非営利法人として設立された天体望遠鏡博物館との協力関係もつくっていくことになった。カルバー望遠鏡については今回の明月記展での展示が終了後、再来年度オープンする予定の天体望遠鏡博物館にしばらくの期間おあずけして展示・公開に利用してもらうことになった。花山天文台の博物館構想が実現した時点で、花山天文台にもどし主要展示物として利用することになる。また国立科学博物館でも天体望遠鏡関連の企画が行われる際にはそちらでも利用していただくように協力する約束である。この協力関係は 3 機関のあいだの

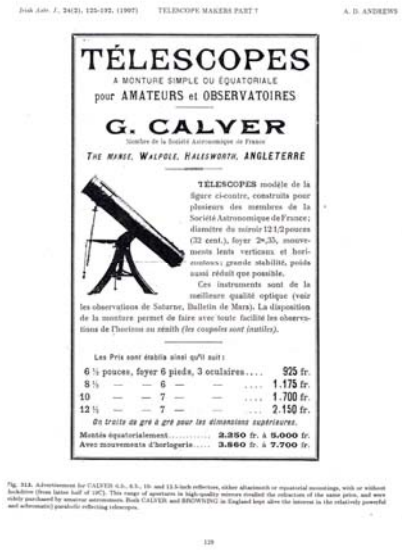
一時的なものではなく、歴史的な望遠鏡の次の世代への継承を目的として、協力組織を増やしながら、かなりの長期間のことをみこしての議論もしつつ維持してゆくことになるだろう。

『山本一清伝』執筆・出版計画

山本先生の多方面にわたる活躍の資料が大量に残されており、それらを読み解き、先生のお考えになったことをできる限り正確を期し、記して将来につたえるという事業は、非常に困難を極めることは予想がついている。ひとまず次のような章立てにて評伝の執筆を考えている。

第1章　生い立ちと学業
第2章　キリスト教
第3章　天文学研究
第4章　天文学普及
第5章　社会活動
あとがき　未来への伝言

内容が多岐にわたることになり、一人の執筆者の手に負えるものではない。すでに何人かの方に分担執筆の手をあげていただいているのは心強いことである。東亜天文学会が数年後に創立百年を迎えることもあり、同会との連携もはかってゆきたい。しかしきちんとした評伝にするためには、全体の文章の構成内容についてかなりつっこんで手をいれる必要があり、それは冨田がおこなうこととした。全体は A5 版、500 ページくらいになるだろう。出版予定は 2017 年 3 月を期している。費用捻出についてはあらかじめ購入希望の予約をとるかたちですすめたいと考えている。


Irish Astr. J., 24(3), 125-132, (1997)　TELESCOPE MAKERS PART 7　A. D. ANDREWS

TÉLESCOPES
A MONTURE SIMPLE OU ÉQUATORIALE
pour AMATEURS et OBSERVATOIRES
G. CALVER
Sociétaire de la Société Astronomique de France
THE MARLE, WALPOLE, HALESWORTH, ANGLETERRE

TÉLESCOPES modèle de la figure ci-contre, construits pour plusieurs des membres de la Société Astronomique de France; diamètre du miroir 12 1/2 pouces (32 cent.), foyer 2m,35, mouvements lents verticaux et horizontaux; grande stabilité, poids aussi réduit que possible.

Ces instruments sont de la meilleure qualité optique (voir les observations de Saturne, Bulletin de Mars). La disposition de la monture permet de faire avec toute facilité les observations de l'horizon au zénith (*les coupoles sont inutiles*).

Les Prix sont établis ainsi qu'il suit :

6 ½ pouces, foyer 6 pieds, 3 oculaires....	925 fr.
8 ½ — — 6 — —	1.175 fr.
10 — — 7 — —	1.700 fr.
12 ½ — — 7 — — ...	2.150 fr.

On traite de gré à gré pour les dimensions supérieures.

Montés équatorialement..... 3.250 fr. à 5.000 fr.
Avec mouvements d'horlogerie.... 3.560 fr. à 7.700 fr.

Fig. 313. Advertisement for CALVER 6.5-, 8.5-, 10- and 12.5-inch reflectors, either altazimuth or equatorial mountings, with or without lockdrive (from latter half of 19C). This range of apertures in high-quality mirrors rendered the enhancers of the same price, and were widely purchased by amateur astronomers. Both CALVER and BROWNING in England kept alive the interest in the relatively powerful and achromatic) parabolic reflecting telescopes.

129

A.D. Andrews, *Cyclopaedia of Telescope Makers, Irish Astron. J.*, vol.20, no.3, 1922 より